## (1グループ) 目的の階層化 主語は住民

ターゲット	レベル 5		٦
	(未来の姿)	なく利用でき、キャッシュレス支払にもスムーズに対応できる。	
	レベル4 (将来的な目的)	パークは売り場面積が小さく高齢者には買物がしやすいとの声も聞かれるが、商品数が多くはなく、客数も減っているので閉店する?という話しも聞かれることがある。地域に根差した小規模のお店への継続支援は必要ではないか。 移動手段などは各地区で独自の取り組みも聞かれる。情報の整理と取り組みについての共有をすることも必要ではないか。また、地域ごとに実情は異なり、根差しているお店もある。地域の実情に応じた販売形態の実現、例えば無人販売所や移動販売、食料品の自動販売機で支払方も現金やキャッシュレスなどが出てきてもいいのではないか。 配食サービスは拠点までの運搬をだるま屋に頼んでおり、配送費をお支払いしているので、利用者が増えることで事業継続に繋がり、結果としてだるま屋への支援になるのではないか	   移動手!   に取り   るため、
	レベル3 (主たる目的)	自宅から買物先や市民センターなどの拠点までの移動手段を確保できる。 乗合タクシーの便数の増加(R9、R10年頃から?生活福祉バスから変更予定)生活福祉バスは利用者減少のため乗合いタクシーに変えていく方向で検討中。 福祉移送サービス事業の利用目的を見直してみる。限定的に買物の使用ができるようになっているのは先進的ではあるものの、変化するニーズに合わせて見直す必要は出てくる。しかし、内容によっては公共交通に影響する可能性もあることを考慮する。	生活福行しても行る。
	レベル 2 (すぐに行える事)	デイサービス、ミニデイなどのご高齢者向けにスマートフォン教室を 開催してスマートフォンの使用に慣れてもらう。(スマートフォンで キャッシュレス支払がスムーズにできれば無人店舗などお店の形態の 選択肢が増え、利用機会も増える。)	
	レベル 1 (既に行われている事)	だるまやの配達、生協(個配)、近所の人の送迎での買物(年々減少傾向)、家族帰省時の送迎やお使い、受診時に医療機関の近くでの買物、移動手段として生活福祉バスの利用、自家用車の使用、帰省した家族の車、家族の帰省時に所有している車を運転してもらう、など。	

移動手段については宇治町のことぶき会が宇治町で独自 に取り組まれているものがある。公共交通との絡みもあ るため、エリアや規模などは限定的にしている。

生活福祉バスは利用者がほとんどいない状態で走らすだけになっていることも多く、また受診などの目的で使用しても便数が少なく往復で1日かかるという課題もある。

## (2グループ)目的の階層化 主語は住民

	レベル 5 (未来の姿)	
	レベル4 (将来的な目的)	・無人販売所(自動販売機)で地域の人が農産物等を販売することができる環境を作り、出品することによる生きがいができる。
ターゲット	レベル3 (主たる目的)	・移動販売のルートや配達に限界があるため、無人販売(自動販売機)を生活の拠点に 設置する。
	レベル 2 (すぐに行える事)	・利用できることを知らない人もいるため周知活動の強化をする。 ・代が変わったとしても利用できる制度について世代間で共有を行う。
	レベル1 (既に行われている事)	・ホッと広場たかはし(毎週木曜日)にマルナカの移動販売車が来ている。自力で来る ことが難しい人は送迎利用ができる。 ・町内会活動として買い物ツアーを実施している箇所もある。